

香川大学生涯学習教育研究センター

NEWSLETTER

Vol.1 No.2

発行:平成16年9月28日

1. 公開講座パイロット・プロジェクト～途中経過の報告～

創刊号でご案内したパイロット・プロジェクトですが、8件のお申し込みをいただきました。(下表参照) 突然の提案にも関わらず、ありがとうございました。

担当者	講座名	実施日	受講料
野崎武司(教育)	ボール運動のツがつかめる体育教室	8/23～8/27	3,000円(10h)
松尾邦之(法) 他1名	知っておきたい年金制度	10/2～12/4	7,500円(10h)
佐々木信行(教育)	現代温泉学入門	10/7～11/4	5,000円(7.5h)
村山聡(教育) 他1名	人が語る瀬戸内海～ライブストーリー発見の旅に出よう～	10/9～11/27	6,000円(15h)
山田勇(経済)	憧れのハワイ語会話～ハワイ旅行の実現に向けて～	10/15～12/17	6,000円(15h)
坂井聡(附属養護) 他1名	障害のある子どものためのコミュニケーション支援セミナー(託児付)	10/16～10/23	3,000円(6h)
安藤博子(経済) 他8名	知って得する!暮らしに役立つパソコン活用術	10/20～11/24	5,000円(10h)
猪下光(医) 他2名	子どもの気になる病気～家庭と学校での役割～(託児付)	11/18～12/16	3,000円(10h)

<第一弾終了>

野崎先生による子ども向け体育教室がプロジェクトのトップを切って開講されました。附属小学校、亀阜小学校、二番丁小学校の4年生以上、約1,500人に学校を通じてチラシを配布させていただきました。効果は絶大で、配布後間もなく定員の24名が埋まる盛況ぶりでした。

実施にあたってはアルバイトの学部生、現職派遣の院生がお手伝い下さいました。1チームに1指導者という恵まれた環境の中で、子どもたちも十分楽しみながらボール運動ができたようです。(写真参照)保護者に聞き取りを行ったところ、「このような講座をもっとやって欲しい」、「価格設定がありがたい」、「学生さんが頼もしい」などのご意見をいただきました。

野崎先生のお考えから、講座の質を確保するために定員設定を少なくし、学生アルバイトも入れ、きめ細かい指導を目指しました。そのため参加者の満足度は高く、今後の子ども対象の講座に明るい見通しを与えていただきました。ありがとうございました。



<開設までのプロセス>

従前の公開講座と比較して制約が少なかった関係で、各講座の企画については担当講師とセンター専任教員とで事前協議をしながら詰めを行っていきました。講座のテーマや開設時期、回数、定員、受講料、チラシに載せるための概要、写真等、研究室に直接伺ったり、メールでやりとりをしながら準備しました。

そのプロセスを通じて、学部の先生方との距離が多少なりとも埋められた気がしました。今回のパイロット・プロジェクトへの応募が、研究成果の社会還元の場合、民間とのコラボレーションの試み、学習の喜びや楽しさを実感できる場の提供など、新たなる可能性への挑戦であることも明らかとなりました。

そのような担当講師の熱意に応えるためには、公開講座の案内をできるだけ多くの方々目に触れさせることが必要となります。センターとしては、広報面での充実に力を注ぎました。業者に依頼して作成した全体のチラシとともに、ピンポイントでの効果的な広報のためにセンター独自で作成した講座ごとのチラシを準備しました。適所に確実に置いてもらうには、関連施設に電話でお願いするだけでなく、直接出向いて理解を得ることも大切です。競合しない内容を厳選し、民間カルチャーセンターにもチラシを置かせてもらったり、学習意欲旺盛なかがわ長寿大学の受講生にもチラシを配布させていただきました。メディア、特に四国新聞の講座紹介のスペース(月曜日)にタイムリーに取り上げてもらうことも計画中です。

努力も結果につながらなければ意味はありません。シビアな結果が私たちに突きつけられることも予想されます。しかし、パイロットとして現状で可能な限りの取り組みを行っていますので、プロセスの評価はかなり正確にできるだろうと考えています。この取り組みから得られた成果を次年度以降のセンター事業に反映させていくつもりです。今後も一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2. 科研費による研究成果報告

昨年度、現香川大学に移行した直後に、センターより「大学開放に関する意識調査」（科研費：基礎研究C：広島大学、滋賀大学、大分大学及び香川大学との共同研究）をお願いしました。その報告書『高度生涯学習社会に対応したコミュニティ・パートナーシップ・センター・モデル開発のための基礎調査』が当センターに届きましたのでお知らせします。その節はご多忙中にも関わらずご協力下さりありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

調査票の回収率は28.6%で、内工学部及び医学部の総数が全体の過半数を占めていることを先にお断りしておきます。それでは、他大学との比較という観点から特徴的な結果をいくつか報告いたします。

広島大学、滋賀大学、大分大学及び香川大学の4大学を比較すると、香川大学の特徴（報告書18-19頁）は、大学開放の推進を肯定的に捉えてはいるものの、担当してもよいとする教員比率は4大学中最も低くなっています。これは大学開放への取り組みが「業績として評価されない」や「大学側の認識が低い」と考える教員が4大学中最も高かったこととも関連しているようです。

次に学内教員が当センターをどう見ているか、気になる結果を紹介します。当センターの活動への認知度は約3割に止まり、センターへの関心や協力姿勢は大分大学や滋賀大学に比べると軒並み低く止まっています。旧香川医科大との統合直後という条件を差し引いても厳しい数字だと捉えられます。センターの事業総数を拡大したり、改善すべきだと考える教員が約4割にのぼり、大分大学や滋賀大学よりも高くなっています。



この結果は教員の職務に対する生き甲斐に一因があるようです。調査結果から、大分大学や滋賀大学は地域における研究・教育活動を重視する「ローカリズム」の傾向が強く、香川大学は研究・学会活動を重視する「コスモポリタニズム」の傾向が強いことがわかりました。ひとつの説明原理としては興味深いのではないのでしょうか。

本報告書を20部ほど保管しています。ご関心のある方にはお譲りできますのでご連絡下さい。

センター専任教員（助教授） 清國祐二（内線1272、kiyokuni@cc.kagawa-u.ac.jp）

3. 新刊紹介

鈴木真理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』学文社、2004年
…当該分野の新進から中堅研究者により執筆された本書は、社会教育における連携や評価などの新しい動向を織り込みつつ、社会教育計画策定に際して役立つよう基礎的な整理と問題提起を目指して編集されました。

鈴木真理編『改訂博物館概論』樹村房、2004年
…本書は生涯学習社会の要請に応える博物館活動を担う専門職である学芸員を養成するための標準的テキストとして編集されています。1999年に出版された大堀哲監修博物館学シリーズ（全7巻＋別巻1）中の第一巻『博物館概論』の改訂版。（山本珠美共著）

お知らせ

- 当センターは上杉正幸委員長（当センター長）のもと、以下9名の運営委員により運営されています。（任期：2004年4月1日～2006年3月31日）
清國祐二、山本珠美（以上、センター）、野崎武司（教育学部）、潮海久雄（法学部）、星野良明（経済学部）、實成文彦（医学部）、山口順一（工学部）、亀山宏（農学部）、関敏範（地域マネジメント研究科・連合法務研究科）
- 次回NEWSLETTER（10月下旬発行予定）では、当センターと地元自治体との連携事業であるかがわ県民カレッジと高松市地区公民館職員研修会について取り上げる予定です。